

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

退勤する時刻、外の闇はほどけてきて、少しだけ明るさが残るようになった。公園で時間ぎりぎりまで遊ぶ子ども、ちらほら出てきたようだ。

一方、緑色の茎を真っすぐに伸ばした水仙の花の蕾も凍える寒波。日差しの温もりが有難い。

春、遠からじ。

まんりょう

万両 ～江戸庶民に心意気～

一両、十両、百両、千両、万両・・・小判を数えているではありません。どれも、同じような紅い実をつける木の呼び方です。



「一両」はありどお蟻通し、「十両」はやぶこうじ藪柑子、「百両」はからたちばな唐橘ともいいます。やはり桁が増えるほど、木の高さも高く、実も多くなるようです。

「千両、万両、ありどおし(ずっとある)」といって、お正月には、この三つを寄せ植えにすると縁起がいいとされたそうです。

これらのうち、江戸の庶民に一番人気があったのは、十両でした。

万両、千両がもてはやされるのに反発して、十両ブームが起こったのだそうです。「十両盗めば首が飛ぶ」といわれた時代のこと、大金に変わりはないのですが、それでも江戸っ子たちの心意気を感じられるようです。

(山下景子「美人の日本語」より)

母は母

月に一度の母との面会予約が取れたので、長崎に帰省しました。ちょうど父の三回忌に合わせて、兄が日程を調整してくれていたのです。

エレベーターから車いすに乗って姿を現した時に、私は手を振って迎えました。元気づけようと思っていたからでした。「おーい、ただいま。変わらんねえ」と声をかけ面会室に入りました。(今回は部屋での面会が許されました)

面会室に入るや否や、母は「あいさつしたと？お世話になつるとよ」と、車いすを押して下さっていた介護士の方への挨拶を促されました。私はハツとして、自己紹介をしながら頭を下げ詫びたのです。「二男です。いつもお世話になります。ありがとうございます」母は安心したのでしょうか、近況を聞いたり、私の妻への感謝の思いを話した



令和4年度 第21号
令和5年1月23日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿2-16-14
電話 043-243-4343

り、いつものようにあれこれと語り始めるのでした。

みるみる時間は過ぎて、面会時間を気にする母は「もう終わりにせんばいけん」と何度も気にしていました。「よかやろう、呼びに来てくれるよ」と言っても、「時間は守らんば」と、ずっと気にかけていました。

兄と3人並んで写真を撮ってもらって部屋の外に出ると、別の女性の方がいらっしやいました。「こうちゃん、この人にもお世話してもらおうとよ」・・・その人がどなたかを知らない息子に、お礼を言いなさい、挨拶しなさい、との意味を込めて母は言ったのでしょうか。「いつもお世話になっております。ありがとうございます」

もちろん、中高生時代に少なからず抱いていた、いやいや言わされるような感情は全くなく、背筋を伸ばされる気持ちになります。千葉で生活しこの歳になると、このような瞬間はありません。小さい子どもの頃に帰ったような気分です。叱られたり注意されたりする心地よさや気楽さを与えられたのです。

「はよ早う、くたばればよかとぼってん・・・」と冗談のようにぽつんと言う母は変わらずにいました。別れ際に、「また夏に帰ってくつけんね」と手を握ると、「冷たかる？」と母は微笑みました。つるつるとして、きれいで、小さく、優しい手でした。



主催事業の予定

1月27日(金) 13時30分より

「LGBT+をもっと知る講座」

『レインボー千葉の会』の方による講演です。受付にチラシがあるのでご覧ください。

「LGBTQ」・・・目にしたり聞いたりしたことはありませんか？社会には、自分の性意識に悩み、生きづらくなっている人がいらっしやいます。

・『身体の性』は男性でも『心の性』は女性・・・
・『トランスジェンダー』、『セクシュアルマイノリティ』、『性同一性障害』・・・などの言葉も“聞いたことはある”程度でないですか？

『多様性の時代』に生きるものとして、様々な課

題と現状を、是非この機会に、もっと多くの方に知っていただきたいと考えています。

***まだまだ席に余裕があります。ご希望の方は事務室までお声掛けください。**

忘れ物が増えています

- ・傘(ビニール傘)
- ・上履き(3階講堂前の下足箱)
・・・取り間違いも
- ・眼鏡 ・自転車の鍵
- ・CD プレーヤー内に CD
- ・上着、手袋 などなど

受付で鍵を受け取って部屋を開けて、終わったら部屋を閉めて鍵を返却する・・・という手間をおかけすることになったからでしょうか、あとになって忘れ物が発見されることが増えてきたように思います。活動時間は限られていますので、時間に余裕をもって活動を終了し、もう一度手荷物、身の回りを確認して終了してください。

新宿地区部会に参加させていただきました

1月21日(水)に定例会議がありました。地域の各団体代表の方の報告は、地域を知る良い機会だと思いました。

各団体の活動は、コロナ禍前のような活動が完全には回復していないようでしたが、計画が進められるようになるなど行事は行われているようでした。地域の活動が、お集りの方々のご尽力によって支えられていることがよくわかりました。地域の活性化のためにも、コロナ禍の完全収束を願うばかりです。 役員の皆様、ありがとうございます。

主催事業の予定

- ・2月13日(月)、14日(火)「キムチづくり講習会」
- ・2月15日(水) 「整理収納講座」
- ・3月1日(水) 「初心者向け スマホ講座」
- ・3月14日(火) 「和菓子づくり講習会」

日程が近づきましたら、市政だよりや公民館情報誌(受付横にあります)に掲載されますのでご覧ください。

【今日の公民館】



『蠟梅(ロウバイ)』
別名『唐梅』 中国原産
英名『Winter sweet』
花言葉は「慈愛」

ロビーに甘い香りを放ちます



『冷雨に咲く』

1月初めの降雨量が少ない時期に、水遣りを怠ったせいでしょうか、なかなか花芽が出ていませんでした。冷たい雨の中に、大きく花びらを広げた、「パンジー」と「ビオラ」が正面玄関に鮮やかです。

クラブ連絡会代表者会議があります

3月11日(土) 午前10時から(受付9:30から)
3階講堂にて開催されます。会則の一部変更と、令和5年度役員選出が議題です。

各サークル1名の参加をお願いします。役員決定のくじ引きの際、欠席されたサークルについては現役員が代理で抽選します。

詳しくはレターボックスにお手紙が入っていますのでご確認ください。

季節の日本語

ゆきもちまつ
雪持松 ～待つ姿の風格～

おめでたい木といえば、百木の長、松です。

神の宿る木と言われ、長寿を祝う縁起のいい木とされてきました。

着物などの文様に、雪持松というのがあります。松に雪が降り積もっている風景を、図案化したものです。常緑の松に、真っ白な雪。本当に、美しい取り合わせですね。

松の語源は、神様がおりてくるのを待つ、神を祭るという意味につながっているといえます。

待つことには、心配やつらさが伴います。それなのに、寒い冬でも、雪が降っても、いつも変わらない、堂々とした姿で、待っている松。

そんな松の姿を、人々は、感動を持って、見続けてきたのでしょうか。

(山下景子「美人の日本語」より)

雨雪も 寒さも抱え 春を待つ

・・・もうすぐ、もうすぐ・・・

子にもどり 小さき母の 手をさする

・・・自分は大人な子ども・・・

(新宿公民館 館長 迎 浩二)